

令和 6 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 2 月 20 日

※本書式は、従来の書式例です。

札幌市立 南月寒小学校

1 今年度の重点目標

「つながり」を広げる子ども～「つながり」が広がる学校づくり

2 本年度の経営方針

「つながり」を広げる教育活動
 ◆学びの「つながり」が広がる学習・授業 ◆社会・生き方との「つながり」が広がる活動や体験
 ◆子ども同士の「つながり」が広がる学校生活 ◆保護者・地域との「つながり」が広がる場

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	「つながり」を広げる子ども	・学び力、豊かな心、健やかな体の育成のため、全教員が「つながり」を広げる子どもを育むという共通認識に立ち、協働して実践に当たっている	A	教職員がより一層「一人一人の子どものよさをつなげる」意識をもち、教育活動を推進するように努める。評価と改善の一体化を強化し、教職員間で情報やアイデアを率直に共有し、協力して解決策を見出していけるような環境づくりに努める。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・子どもたちが、親や先生以外の大人たち（地域）ともつながっていける環境に期待しています。 ・「つながり」が具体的教育活動になっており、成果をあげている。 ・改善の方策として適切だと思います。 ・「つながり」をキーワードにした学校づくりはとても分かりやすく行事を通して児童自ら意欲的に取り組んでいるのが感じられる ・地域のつながりを大切にしてください、感謝しております。				
人間尊重の教育	自分が大切にされていると実感できる教育活動の推進	・地域や人との関わりを大切に学習の充実を図り、自分が支えられていることを実感できるように、多様な子どもたちの考えを認め寄り添いながら導く指導を大切にしている	A	次年度はさらに総合学習の時間等を活用しながら地域とのつながりを大切に教育活動を展開していく。また、道徳の学習や行事等を通して、自分の成長を実感し、お互いの頑張りを認め合うことができるように活動内容を充実させることで、一人一人が安心して学校生活を送れるように関わっていく。	A	A
「学び力」の育成	学んだことをつなぐを実感し、学びの広がりを広げる子どもの育成	・教職員全員による公開授業や授業改善に向けた校内研修等により、教師の指導力向上や指導方法の改善が図られている。	A	教職員による公開授業・授業検討を行い、「主体的に学ぶ子」の育成を目指した授業改善や指導力の向上、指導方法の改善を図っていく。校内研修では、先生方のニーズに合わせたテーマを設定し、明日の子どもに活かせる研修を目指す。	A	A
「豊かな心」の育成	人とのつながりを実感し、心のつながりを広げる子どもの育成	・3つの「あ」「挨拶」「歩き方」「後片付け」の定着に向けて、適切な指導と児童の主体的な活動が効果を上げている	B	次年度は、「挨拶」に重点をおき、委員会活動等を活用しながら、児童の主体的な活動を支援していく。年間を通して、適切な指導を行うことで、児童の意欲を持続させていけるように努める。さらに、教職員の意識をさらに高めることで、学校一丸となって挨拶があふれる活気のある学校づくりに努める。	A	A
「健やかな体」の育成	生活と体のつながりを実感し、健康のつながりを広げる子どもの育成	・学校行事を通して、学年を超えてお互いのよさに気付き、認め合い、つながりを感じながら、自分の役割・課題を意識してこれからの自分につなげていく	A	学校行事では、異学年との関わりを意識して活動を進めたことにより、互いに認め合う姿が見られた。次年度からも、互いのよさを認め合い、「あこがれ」と「伝統」を継承を促していけるように活動を工夫し、関わっていく。	A	A
一貫性・連続性のある教育（小中一貫した教育）	子どもの知・徳・体の調和のとれた育ちの一層の充実	・各学校のグランドデザインにおける目指す児童・生徒の姿を共有し、9年間の系統性・連続性のある教育の実現を目指している	A	今年度の成果をもとに、各学校のグランドデザインを見直し、各校の実態を考慮しながらより持続可能な教育の充実を目指す。授業づくりや、日常の様子との交流を定期的に行い、目指す児童・生徒の姿をよりはっきりさせ、具体的な取組みを模索するとともに、その実現を目指す。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・挨拶がなぜ必要なのか？を子どもたちへより具体的に説明することを期待しています。 ・ why：目的、存在意義 what：何をやるのか、方針 how：具体的にどうすすめるのか、手段を高学年の児童は理解できているのではないかと ・ 「豊かな心」の挨拶については、中学校でも課題。9年間を通して身に付けさせたい。 ・ 貴校に行くと児童が気持ちのよい挨拶をしてくれる。今後さらに励行し、活気あふれる学校であってほしい。 ・ あいさつについては、子どもだけではなく親がお手本となるように父母への指導をお願いします。				
学校独自に設定する分野	「ギンナン活動」（異年齢活動）が子どもたちの自己有用感や自己肯定感につながるように、活動を工夫する。		B	次年度も、異学年交流であるギンナン活動を通じて、相手を思いやる心を育み、児童に適切な役割を与えることで自己肯定感の向上に貢献していく。内容や体制の改善を計画的に行う。	A	A
	自分の命を大切に、いじめのない温かな人間関係をつくることのできる子どもを目指し、魅力ある学年・学級づくりや教育相談体制の充実を図る		A	シャボテンログやいじめアンケートを活用し、児童の心や体の様子を細かく見とることができた。また、何か問題が起きたときには学校全体で共有し、組織的に対応することができた。次年度も、細かく児童の様子を見とる体制を大切にするとともに、道徳の時間等を活用しながら、温かな人間関係をつくる子どもを目指す。	A	A
	地域と保護者と連携を図りながら、効果的に教育活動を行ったり、児童の安全を見守ったりする		A	教育活動では、保護者の方にご協力いただきながら、安全に進めることができた。次年度も共通の目標に向かって積極的に協力し合い、よりよい未来を楽しんでいく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・保護者、学校、地域が児童をこれまで同様に見守っていきたいと思います。 ・異学年交流については中学校でも今後取り組もうとしているもので、小中の交流によって効果的な活動になると思う。方策は適切。 ・社会問題でもあるいじめ不登校など、アンケートを活用して、細かく様子を知る取り組みは素晴らしい ・子ども一人一人に「めくばり」指導をしておりますことに感謝しています。				